corega®

WLUSB-11 mini2

取扱説明書

PART1 まず準備が必要 1

PART2 本製品をパソコンに取り付けよう 2

PART3 無線 LAN の設定をしよう 3

PART4 トラブルや疑問があったら 4

PART5 ユーティリティーを見てみよう 5

付録 付録

http://www.corega.co.jp/

PN J617-M7374-00 Rev.A

作業の流れ

本書では、本製品を使って無線LANに接続できるようになるまでの作業をPARTに分けて説明しています。各PARTでの作業は次のとおりです。順番に読んで、作業を進めてください。

PART1

まず準備が必要

① 添付品の確認
② 使用環境の確認
本製品を取り付けられるパソコンの条件や対応OS、通信相手の機器の設定などを確認してください。
③ 各部の名称と機能の確認

PART2

本製品をパソコンに取り付けよう

① ソフトウェアのインストール
添付のCD-ROMからユーティリティーをインストールします。
② 本製品の取り付け
本製品をパソコンのUSBポートに取り付けます。
本製品をパソコンに取り付けると、自動的にドライバーのインストールが行われます。使用するOSに対応した箇所を読んでください。

PART2までの作業が終了したら、無線LANの設定をします。無線LANの設定は、使用するOSによって異なります。使用するOSに対応した箇所を読んでください。

PART3

無線LANの設定をしよう

① パソコンのネットワーク設定の確認
② 無線LANの設定
添付のユーティリティーで設定します。
③ 接続状態の確認
④ セキュリティーの設定
必要に応じて、通信内容の暗号化の設定をします。

PART3 までの作業が終われば、無線 LAN に接続できるようになります。
PART4 以降は、必要に応じて読んでください。

PART4

トラブルや疑問があったら

PART3 までの作業で、無線 LAN への接続ができなかった場合や、本製品の操作でわからないことがあった場合には、この PART を読んで解決方法を探してください。

PART5

ユーティリティーを見てみよう

本製品は、添付のユーティリティーによって、詳細な設定ができます。この PART では、ユーティリティーで設定できる項目について説明しています。

付 録

付録

製品仕様、保証と修理に関する説明があります。

はじめに

このたびは、「corega WLUSB-11 mini2」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本書は、本製品を正しくご利用いただくための手引きです。必要なときにいつでも参照していただけるように、大切に保管してください。
本製品に関する最新情報（ソフトウェアのバージョンアップ情報など）は、弊社のホームページでお知らせします。無線LANに関する情報や活用例などもご紹介しております。

コレガのホームページ　http://www.corega.co.jp/

本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

●記号について

注意!	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
メモ	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本製品	corega WLUSB-11 mini2 のことです。
「 」－「 」－「 」	「 」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。
Windows XP	次のいずれかを指します。 ・Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack 1 ・Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版 Service Pack 1

●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

安全にお使いいただくために　必ずお守りください

本書では、製品を安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

注意事項を守っていただけない場合、どの程度の影響があるかを表しています。

⚠警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。

	感電の可能性が想定されることを示します。		発煙または発火の可能性が想定されることを示します。
	けがを負う可能性が想定されることを示します。		高温による傷害の可能性が想定されることを示します。

障害や事故の発生を防止するための、その他の注意事項は次のマークで表しています。

	電源プラグを抜く 電源ケーブルのプラグを抜くように指示するものです。

⚠警告

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。
火災や感電、けがの原因となります。

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。

異物は入れない　水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。

高温注意

本製品の使用直後は高温になっています。不用意に触れると、やけどの恐れがあります。

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

・直射日光の当たる場所
・暖房器具の近くなどの高温になる場所
・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度80%以下の環境でご使用ください）
・振動の激しい場所
・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
・腐食性ガスの発生する場所

静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。

取り付け・取り外しのときの注意

パソコンのUSBポートに本製品を取り付ける作業は、必ず本取扱説明書、およびご使用のパソコンの取扱説明書を参照の上、正しく行ってください。

長期保管時は袋に入れて

本製品を長期間ご使用にならない場合は、パソコンから取り外して必ず添付の袋（静電防止）に入れて保管してください。

取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。

お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、堅く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください）。

電波に関する注意

本製品を下記のような状況でご使用になることはおやめください。
また設置の前に、「安全にお使いいただくために」を必ずお読みください。

- 心臓ペースメーカーをご使用の近くで、本製品をご使用にならないでください。
  心臓ペースメーカーに電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- 医療機器の近くで、本製品をご使用にならないでください。
  医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- 電子レンジの近くで、本製品をご使用にならないでください。
  電子レンジによって、本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、工場の製造ラインで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに本製品の周波数を変更して、混信を回避してください。
3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスＢ情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

目次

作業の流れ …… 表紙裏
はじめに …… 2
本書の読み方 …… 2

安全にお使いいただくために　必ずお守りください …… 3

ご使用にあたってのお願い …… 5
お手入れについて …… 5
電波に関する注意 …… 6

PART1　まず準備が必要 …… 10

添付品の内容を確認しよう …… 10
使用環境を確認しよう …… 11
　チェック1　パソコンの環境は問題ないですか？ …… 11
　チェック2　無線LANでどんなことをしますか？ …… 11
　チェック3　通信相手の機器は準備できていますか？ …… 13
　チェック4　通信距離は問題ないですか？ …… 14
　チェック5　設定に必要な情報は準備できていますか？ …… 14
各部の名称と機能を覚えよう …… 15
　本体表面 …… 15
　本体裏面 …… 16

PART2　本製品をパソコンに取り付けよう … 17

ソフトウェアをインストールする …… 17
本製品をパソコンに取り付ける …… 21
　Windows XPの場合 …… 22
　Windows 2000の場合 …… 24
　Windows 98/Meの場合 …… 25
本製品が正しく動作しているか確認する …… 26
本製品の取り外し …… 28

PART3　無線 LAN の設定をしよう …… 29

パソコンのネットワーク設定を確認する …… 29
無線 LAN の設定をする …… 36
　インフラストラクチャーモードの場合 …… 36
　802.11 アドホックモードの場合 …… 39
接続状態を確認しよう …… 40
セキュリティーの設定をしよう …… 41

PART4　トラブルや疑問があったら …… 44

解決のステップ …… 44
マニュアルを再確認する。管理者に確認する …… 45
Q&A …… 45
　本製品用ソフトウェアのインストールができない …… 45
　「デバイスマネージャ」に本製品が正しく表示されない …… 46
　「デバイスマネージャ」で「×」が付く …… 46
　通信ができない …… 47
　「マイネットワーク」に他のパソコンが表示されない …… 48
　通信速度が遅い …… 49
　ソフトウェアを削除するには？ …… 50
　より安定した通信をするには？ …… 51
　ホットスポットサービスを利用するには？ …… 51
　最新のドライバーやユーティリティーを入手したい …… 52
コレガのホームページの情報を活用する …… 52
それでも解決しなければ、サポート窓口に問い合わせてみる …… 52

PART5　ユーティリティーを見てみよう … 53

ユーティリティーを表示する …… 53
設定項目について …… 54
　「通信設定」タブについて …… 54
　「AP 検索」タブについて …… 56
　「暗号化」タブについて …… 57
　「高度な設定」タブについて …… 58
　「バージョン情報」タブについて …… 60

付録 …… 61

製品仕様 …… 61
工場出荷時の設定 …… 62
MAC アドレスについて …… 62
保証と修理について …… 63
　保証について …… 63
　修理について …… 63
おことわり …… 64

PART1　まず準備が必要

添付品の内容を確認しよう

本製品のパッケージには、次のものが同梱されています（下記以外に添付紙が同梱されている場合があります）。お買い上げ商品についてご確認いただき、万一不足するものがございましたら、お手数ですが弊社サポートセンターまでご連絡ください。

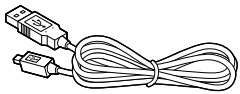
□corega WLUSB-11 mini2 本体

□ユーティリティーディスク
（CD-ROM　1 枚）

□『取扱説明書』（本書）

□製品保証書

□固定用マジックテープ



□USB ケーブル（1 本）

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、弊社サポートセンターにご連絡頂き、混信回避のための処置等について相談下さい。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことがおきたときは弊社サポートセンター（マニュアル・取扱説明書等ご記載）へお問い合わせ下さい。

□電波干渉注意ラベル（1 枚）

使用環境を確認しよう

本製品を接続する前に、以下の項目を確認し、☑のようにチェックを付けてください。

注意! 企業などで本製品を利用する場合は、ネットワーク管理者にご相談のうえ、必要な機器の準備、設定を行ってください。

チェック1
パソコンの環境は問題ないですか？

本製品は、次のパソコン、オペレーティングシステム（OS）に対応しています。本製品を取り付けるパソコンが以下の条件を満たしているか、確認してください。

対応パソコン	本製品は、以下の条件を満たすパソコンに対応しています。 ・USBポート（USB 1.0または1.1に対応）を搭載している ・CD-ROMドライブが装備されている ・PC/AT互換機、またはPC98-NX（NEC社製）
対応オペレーティングシステム	本製品および添付のユーティリティーは、次のオペレーティングシステムに対応しています。 ・Windows 98（Second Editionにも対応） ・Windows Me ・Windows 2000 ・Windows XP Professional(32bit)/Home Edition

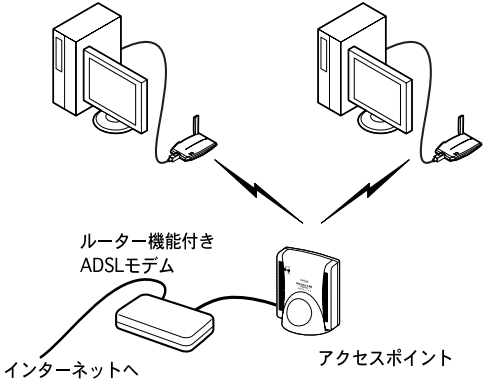
注意!
- 本製品を含め、1台のパソコンでLANアダプターを2つ使用した場合の動作保証はしておりません。
- 本製品の使用中は、パソコンのレジューム、サスペンド、省電力機能を使用しないでください。これらの機能を無効にする方法については、各パソコンメーカーにお問い合わせください。

チェック2
無線LANでどんなことをしますか？

無線LANには、「インフラストラクチャーモード」と「アドホックモード」の2種類の通信モードがあります。無線LANでどんなことをするかによって、使用するモードが異なります。モードが異なると、ネットワークの設定も大きく変わります。無線LANでどんなことをしたいか、そのためにはどちらのモードを使うか、ここで確認しておいてください。

● アクセスポイントを使ってインターネットに接続するなら「インフラストラクチャーモード（Infrastructure mode)」

「インターネット接続を家族みんなで共有したい」「ケーブルなしでインターネットに接続したい」といった場合には、次の図のように、アクセスポイントを使ってインターネット接続をします。このときには「インフラストラクチャーモード(Infrastructure mode)」にします。



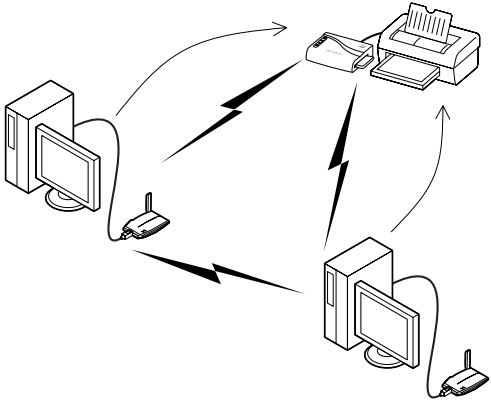
アクセスポイントとパソコンが通信をする方式です。アクセスポイントがADSLやCATV、ISDNに接続されていれば、インターネットにもアクセスできるようになります。

また、既にケーブルを使ってネットワークが構築されている環境に、無線LAN を追加するときなども、インフラストラクチャーモードにします。

メモ　アクセスポイントは、別途ご購入いただく必要があります。

● パソコン同士でファイルのやり取りをするだけなら「アドホックモード（AdHoc mode)」

「離れた場所にあるパソコン同士でファイル交換ができればいい」という場合には、アクセスポイントは不要です。次の図のように、無線LAN機能があるパソコン同士で直接通信をします。このときには「アドホックモード（AdHoc mode)」にします。



チェック3 通信相手の機器は準備できていますか？

本製品は、無線LANで一般的な「IEEE802.11b」規格に対応しています。通信相手の機器が、「IEEE802.11b」規格に対応しているか、確認してください。
また、通信相手の機器で、無線LANに必要な設定をしておいてください。設定方法については、各機器の取扱説明書を参照してください。

メモ
- 接続の可否については、無線LAN機器のメーカーまたは販売店にお問い合わせください。また、コレガのホームページで、本製品と通信可能な機器を紹介しています。他の無線LAN機器を購入する前に、こちらもご覧ください。
- 「IEEE802.11a」規格の無線LAN 機器とは接続できません。

チェック4
通信距離は問題ないですか？

本製品の最大通信距離は、理論上、屋外で150m 、屋内で50m です。本製品を取り付けるパソコンと、通信相手の機器との距離が離れすぎたり、周辺に障害物があったりしないか、確認しておいてください。

メモ
- 周辺の環境（障害物など）、通信相手機器の性能、相手側機器との距離などにより、通信速度、距離が大きく変動します。
- 通信速度や距離を改善するためのヒントを、「PART4　トラブルや疑問があったら」「より安定した通信をするには？」（P.51）で紹介しています。

チェック5
設定に必要な情報は準備できていますか？

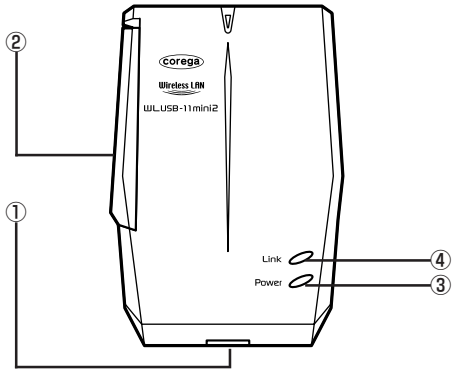
本製品の設定をするには、次の情報が必要になります。

注意！ 会社などで既存のLANに無線で接続する場合は、ネットワーク管理者にご相談のうえ、必要な情報を準備してください。

ESSID	無線ＬＡＮ に接続する機器を識別する名前です。「SSID」と呼ばれることもあります。通信相手の機器と同じにします。通信相手の機器で設定されている「ESSID」を確認しておいてください。
チャンネル（アドホックモードの場合）	使用する電波の周波数（無線チャンネル）です。通信相手の機器と同じにします。通信相手の機器で設定されているチャンネルを確認しておいてください。
暗号キー（WEPキー）（通信相手にも暗号が設定されている場合）	通信するデータを保護するための暗号です。必要に応じて設定します。暗号キー（WEPキー）は、通信相手の機器と同じにします。通信相手の機器で暗号キー（WEPキー）を設定している場合は、設定されている暗号キー（WEPキー）を確認しておいてください。設定について詳しくは、「PART3　無線LANの設定をしよう」「セキュリティーの設定をしよう」（P.41）を参照してください。

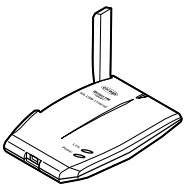
各部の名称と機能を覚えよう

■本体表面



① USB コネクター
パソコンと接続するために、添付のUSBケーブルを接続するコネクターです。

② アンテナ
電波の送受信部です。

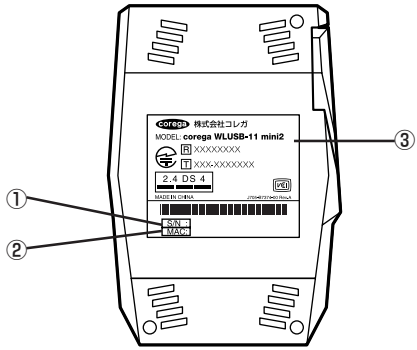


※アンテナを立てた状態

③ Power LED（緑）
本製品を取り付けたパソコンから電源が供給されると点灯します。

④ Link LED（赤）
通信相手の機器との接続状態を表します。
点灯：通信相手と接続している状態
点滅：接続可能な通信相手の検索中

■本体裏面



① シリアル番号
本製品のシリアル番号とリビジョンが記載されています。シリアル番号とリビジョンは、ユーザーサポートへの問い合わせの際に必要となります。

② MAC アドレス
本製品のMAC アドレスが記載されています。

③ 警告ラベル
本製品を安全にご使用いただくための重要な情報が記載されておりますので、必ずお読みください。

メモ　上の図で 2.4 DS 4 は次の内容を意味しています。

使用周波数帯域	2.4GHz 帯
変調方式	DS-SS 方式
想定干渉距離	40m 以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内局」あるいは「特小局」帯域を回避可能

ソフトウェアをインストールする

●インストールする前の確認

本書ではご使用のパソコンのドライブ構成を次のように想定して説明しています。ドライブ名が異なる場合は、実際の環境に合わせて読み替えてください。

起動ドライブ（ハードディスク）	C ドライブ（C:）
CD-ROM ドライブ	E ドライブ（E:）

●ソフトウェアのインストール

本製品を使用するためのソフトウェア（ドライバー、ユーティリティー）を、パソコンにインストールする方法を説明します。ここでは、Windows XPの画面を使用して説明しています。基本的な操作は、Windows XP/2000/Me/98 で共通です。差異のある操作等に関しては、該当の記載内容を参照してください。

注意!
- ソフトウェアのインストールは、パソコンに本製品を取り付けないで行ってください。
- Windows XP の場合は、「コンピューターの管理者」または同等の権限をもつユーザー名でログオンしてください。
- Windows 2000の場合は、「Administrator」または Administrators グループのユーザー名でログオンしてください。

1 ユーティリティーディスクをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

2 デスクトップにある「マイコンピュータ」アイコン（）をダブルクリック（Windows XPの場合は、「スタート」ボタン－「マイコンピュータ」の順にクリック）します。

3 「CD-ROM」アイコンをダブルクリックします。

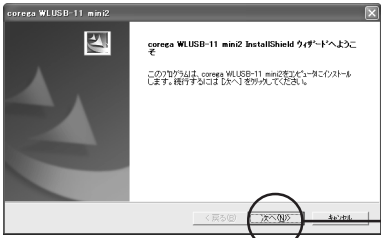
ダブルクリックします。

4 「setup」アイコンをダブルクリックします。

ダブルクリックします。

「InstallShield Wizard」が起動します。

5 「次へ」をクリックします。



クリックします。

「インストール先の選択」が表示されます。

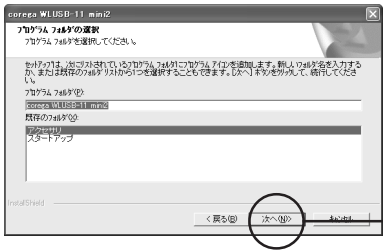
6 「次へ」をクリックします。

クリックします。

(メモ) インストール先のフォルダーを変更したい場合は、「参照」をクリックし、インストールするフォルダーを選択してください。通常は、変更する必要はありません。

「プログラムフォルダの選択」が表示されます。

7 「次へ」をクリックします。

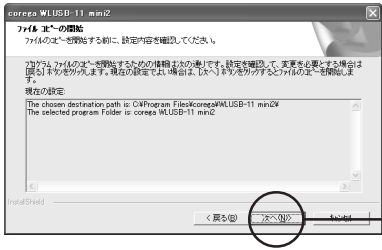


クリックします。

(メモ) 「スタート」メニューで表示されるプログラムフォルダーを変更したい場合は、一覧から選択してください。通常は、変更する必要はありません。

「ファイルコピーの開始」が表示されます。
ここでは本製品用のデバイスドライバーと設定用ユーティリティーをインストールする旨のメッセージが表示されます。

8 「現在の設定」欄の内容を確認したら、「次へ」をクリックします。



クリックします。

インストールが行われ、しばらくすると「InstallShield Wizardの完了」が表示されます。

9 ユーティリティーディスクをCD-ROMドライブから取り出し、「完了」をクリックします。

・「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」と表示された場合は、この項目を選んで「完了」をクリックし、パソコンを再起動します。

・何も表示されなかった場合は、そのまま「完了」をクリックし、「スタート」ボタンから、パソコンを再起動します。

クリックします。

これでソフトウェアのインストールは完了です。

本製品をパソコンに取り付ける

● 本製品を取り付けるときの注意

・本製品を取り付ける前に、必ずソフトウェアをインストールしてください。インストール方法は、「ソフトウェアをインストールする」(P.17) を参照してください。
・Windows XPの場合は、「コンピューターの管理者」または同等の権限をもつユーザー名でログオンする必要があります。
・Windows 2000の場合は、「Administrator」またはAdministratorsグループのユーザー名でログオンする必要があります。
・USB ポートの位置は、お使いのパソコンによって異なります。
・USB対応機器の取り付け方について詳しくは、ご使用のパソコンの取扱説明書をご覧ください。
・本製品をUSB HUBに取り付けて使用すると、動作が不安定になる場合があります。パソコン本体のUSB ポートに直接取り付けて使用してください。

● 本製品の取り付け手順

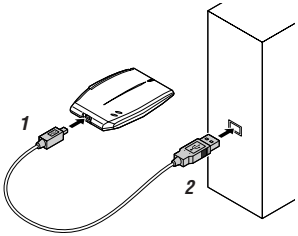
・Windows XP をご使用の場合は、「Windows XP の場合」(P.22) へ進みます。
・Windows 2000 をご使用の場合は、「Windows 2000 の場合」(P.24) へ進みます。
・Windows 98/Me をご使用の場合は、「Windows 98/Me の場合」(P.25) へ進みます。

■ Windows XP の場合

1 コネクターの形状や差し込む向きに注意して、添付のUSBケーブルを本製品のUSBコネクターに接続します。

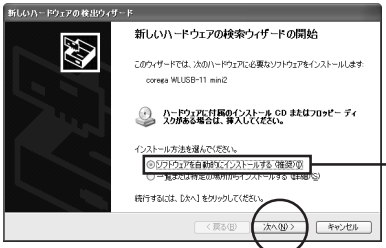
2 USBケーブルを、コネクターの形状や差し込む向きに注意して、パソコンのUSBポートに接続します。
本製品をはじめて取り付けるパソコンの場合、本製品を取り付けたときにプラグアンドプレイ機能によって本製品が自動的に検出され、「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されます。

(メモ) ユーティリティーディスクをセットする必要はありません。



3 本製品のアンテナを起こします。

4 「ソフトウェアを自動的にインストールする」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。



5 「Windowsロゴテストに合格していない」旨のメッセージが表示されたら、「続行」をクリックします。

(メモ) 動作については弊社において確認済みです。

インストールが行われます。しばらくすると「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」が表示されます。

6 「完了」をクリックします。
「新しいハードウェアの検出ウィザード」が終了し、デスクトップ右下の通知領域に無線アイコンとネットワークアイコンが表示されます。

(メモ) この時点でいくつか通知領域付近に吹き出しのメッセージが表示されますが、無視してかまいません。
(メッセージの例)
・新しいネットワークデバイスがインストールされました
・新しいハードウェアが見つかりました

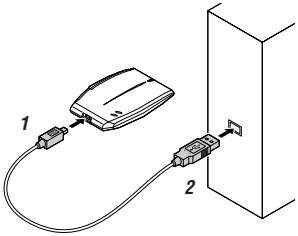
次に「本製品が正しく動作しているか確認する」(P.26) で本製品が正しくインストールされているか確認してください。

■ Windows 2000 の場合

1 コネクターの形状や差し込む向きに注意して、添付のUSBケーブルを本製品のUSBコネクターに接続します。

2 USBケーブルを、コネクターの形状や差し込む向きに注意して、パソコンのUSBポートに接続します。
本製品をはじめて取り付けるパソコンの場合、本製品を取り付けたときにプラグアンドプレイ機能によって本製品が自動的に検出され、「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されます。

(メモ) ユーティリティーディスクをセットする必要はありません。



3 本製品のアンテナを起こします。

4 デジタル署名が見つからなかった旨のメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。
ドライバーがインストールされる旨のメッセージが表示され、ドライバーがインストールされます。

5 ドライバーのインストールが完了すると、デスクトップ右下のタスクトレイに無線アイコンが表示されます。

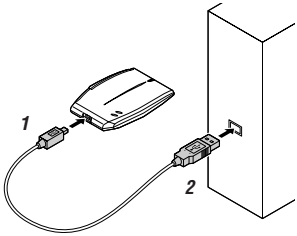
次に「本製品が正しく動作しているか確認する」（P.26）で本製品が正しくインストールされているか確認してください。

■ Windows 98/Me の場合

1 コネクターの形状や差し込む向きに注意して、添付のUSBケーブルを本製品のUSBコネクターに接続します。

2 USBケーブルを、コネクターの形状や差し込む向きに注意して、パソコンのUSBポートに接続します。
本製品をはじめて取り付けるパソコンの場合、本製品を取り付けたときにプラグアンドプレイ機能によって本製品が自動的に検出され、「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されます。

メモ ユーティリティーディスクをセットする必要はありません。



3 本製品のアンテナを起こします。

4 プラグアンドプレイ機能によって本製品が自動的に検出されます。

メモ Windows 98をお使いの場合、下のようなダイアログボックスが表示されたときは、次の手順で操作してください。

① Windows 98のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットし、「OK」をクリックします。

② 「ファイルのコピー」ウィンドウが表示されたら、「ファイルのコピー元」に「E:¥WIN98」と入力して、「OK」をクリックします。

注意! ご使用のパソコンがプリインストール版である場合、「ファイルのコピー元」には、「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」と入力してください。

5 ドライバーがインストールされる旨のメッセージが表示され、ドライバーがインストールされます。

・再起動の画面が表示された場合は、「再起動」をクリックして、パソコンを再起動します。

・再起動の画面が表示されなかった場合は、「スタート」ボタンから、パソコンを再起動します。

6 ドライバーのインストールが完了すると、デスクトップ右下のタスクトレイに無線アイコンが表示されます。

次に「本製品が正しく動作しているか確認する」（本ページ）で本製品が正しくインストールされているか確認してください。

本製品が正しく動作しているか確認する

本製品のインストールが正常に行われていることを確認します。

●「デバイスマネージャ」で確認する

1 「スタート」ボタン−「設定」−「コントロールパネル」（Windows XPの場合は、「スタート」ボタン−「コントロールパネル」）の順にクリックします。

2 「システム」アイコンをダブルクリックします（Windows XPの場合は、「パフォーマンスとメンテナンス」−「システム」の順にクリックします）。

3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします（Windows 2000/XPの場合は、「ハードウェア」タブをクリックして表示される画面で「デバイスマネージャ」ボタンをクリックします）。

4 「ネットワークアダプタ」の左にある＋をクリックします。
インストールが正常に行われていれば、「ネットワークアダプタ」の下に「corega WLUSB-11 mini2」が表示されます。

デバイスのアイコンに「×」「?」「！」などのマークが付いている場合、またはアイコンが「ネットワークアダプタ」の下ではなく、「不明なデバイス」や「その他のデバイス」の下にある場合は、インストールに失敗しています。詳しくは、「PART4 トラブルや疑問があったら」（P.44）をご覧ください。

● 無線アイコンの表示を確認する

インストール完了後、本製品が正常に認識されると、タスクバーに無線アイコンが表示されます。

工場出荷時は、通信モードが「Infrastructure」に設定されています。アクセスポイントとの接続状況によって表示される無線アイコンが以下のように変化します。

・アクセスポイントと通信されている場合 ：

・アクセスポイントと通信されていない場合 ：

次に無線LANの設定をします。
「PART3　無線LANの設定をしよう」（P.29）へ進んでください。

本製品の取り外し

本製品をUSBポートから取り外す場合は、以下の手順で取り外してください。正しい手順で取り外さないと、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

● Windows Me/98 の場合

注意! 本製品を取り外す前に、ご使用のパソコンがネットワークに接続していないこと、また、他のパソコンからアクセスされていないことを確認してください。

1 Windowsを終了します。

2 USBケーブルをパソコンのUSBポートから取り外します。

以上で取り外しの手順は終了です。
再度使用する場合は、Windowsを起動してから、USBポートに接続すれば使用できます。

● Windows XP/2000 の場合

注意!
- 本製品を取り外す前に、ご使用のパソコンがネットワークに接続していないこと、また、他のパソコンからアクセスされていないことを確認してください。
- 以下の操作を行うと、実際に本製品を取り外さなくてもデバイスの使用を停止したとみなされ、本製品は使用できなくなります。再度使用するときは、一度本製品を取り外してから再び取り付けてください。

1 画面右下のタスクトレイのアイコン または をクリックし、「corega WLUSB-11 mini2を停止します。」または「corega WLUSB-11 mini2を安全に取り外します。」をクリックします。

2 安全に取り外せる旨のメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

3 USBケーブルをパソコンのUSBポートから取り外します。

以上で取り外しの手順は終了です。
再度使用する場合は、そのままUSBポートに接続すれば使用できます。

パソコンのネットワーク設定を確認する

無線LANでデータをやりとりしたり、インターネットに接続したりするには、ネットワークの設定が必要です。

● インターネットに接続するとき

本製品を接続したパソコンでインターネットに接続するには、TCP/IPの設定が必要です。次の手順で設定を確認してください。

・ Windows Me/98 の場合

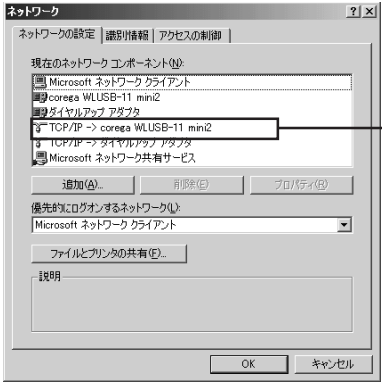
ここでは例としてWindows Meを使用しています。Windows 98をご使用の場合も手順は同様です。

1 「スタート」−「設定」−「コントロールパネル」をクリックします。

メモ　Windows Meの場合、よく使うコントロールパネルのオプションだけが表示されているときは、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックすると、「ネットワーク」アイコンが表示されます。

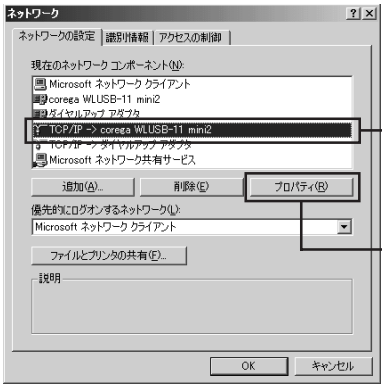
2 「コントロールパネル」にある「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

3 「ネットワークの設定」タブ内で「現在のネットワークコンポーネント」の欄に「TCP/IP ー>corega WLUSB-11 mini2」が表示されていることを確認します。



ここに本製品の名称が表示されていることを確認してください。
※認識されているネットワークアダプタが 1 台しかない場合は「インターネットプロトコル(TCP/IP)」、「TCP/IP」などと表示される場合もあります。

4 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「TCP/IP ー>corega WLUSB-11 mini2」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。



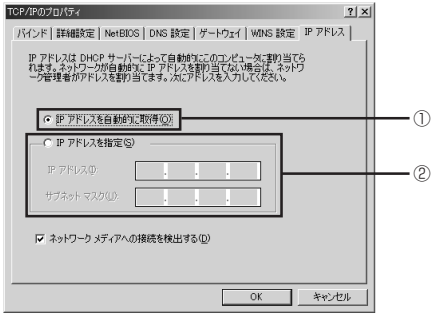
①本製品の名称が表示されているものを選択します。

②「プロパティ」ボタンをクリックします。

5 「IPアドレス」タブで、次のようにIPアドレスの設定をします。

①DHCPサーバー機能を持ったルーターなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。

②DHCPサーバー機能を使用しない場合や、特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択して、使用するIPアドレスとサブネットマスクを入力してください。



6 「OK」ボタンをクリックします。

7 「ネットワーク」画面の、「OK」ボタンをクリックします。

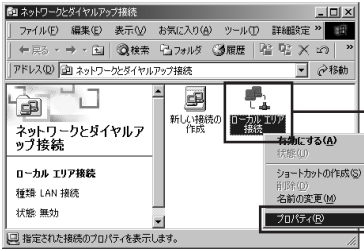
メモ WindowsのOS用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合はドライブにWindowsのOS用ディスクを挿入し、メッセージにしたがって操作します。
再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

・ Windows 2000 の場合

注意! この作業は、「Administrator」または同等の権限を持つユーザー名でログインして行ってください。ユーザー権限については、OSの取扱説明書を参照してください。

1 「スタート」−「設定」−「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

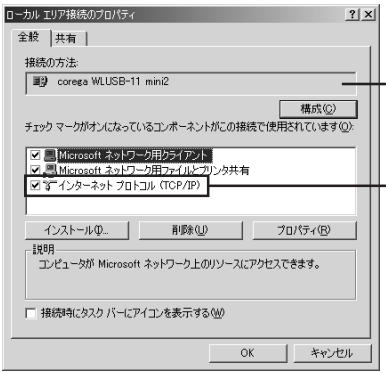


①「ローカルエリア接続」のアイコンを右クリックします。

②「プロパティ」をクリックします。

※「ローカルエリア接続」の名称はご使用のパソコンの環境により異なる場合があります。

3 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が有効になっていることを確認します。



①ここに本製品の名称が表示されていることを確認してください。

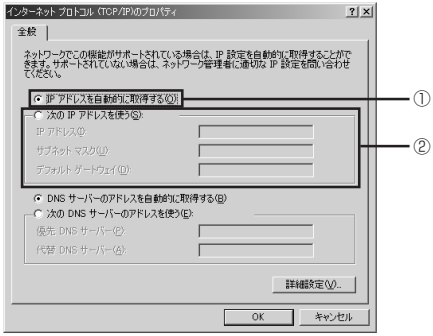
②チェックマークが入っていることを確認してください。

4 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

5 次のようにIPアドレスの設定をします。

①DHCPサーバー機能を持ったルーターなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。

②DHCPサーバー機能を使用しない場合や、特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択して、使用するIPアドレスとサブネットマスクを入力してください。



6 「OK」ボタンをクリックします。

7 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックします。

8 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

(メモ) メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

インターネットに接続するにはルーターなどの設定も必要です。各機器のマニュアルを参照して、設定を行ってください。

・ Windows XP の場合

1 「スタート」−「コントロールパネル」をクリックします。

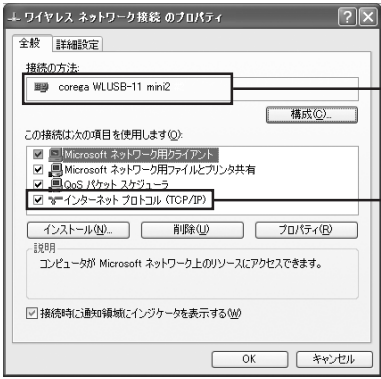
2 「コントロールパネル」にある「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。

「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックしてください。

3 「ネットワーク接続」アイコンをクリックします。

4 「ワイヤレスネットワーク接続」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。

5 「全般」タブで「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が有効になっているか確認します。

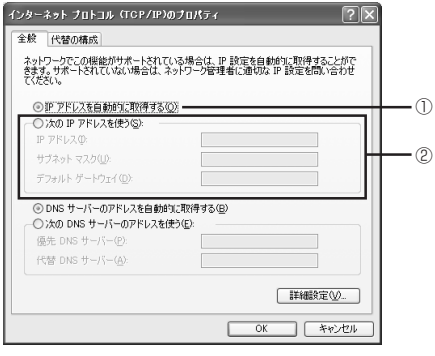


①ここに本製品の名称が表示されていることを確認してください。

②チェックマークが入っていることを確認してください。

6 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

7 「全般」タブを選択し、次のようにIPアドレスの設定をします。
①DHCPサーバー機能を持ったルーターなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。
②DHCPサーバー機能を使用しない場合や、特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択して、使用するIPアドレスとサブネットマスクを入力してください。



8 「OK」ボタンをクリックします。

9 「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面で、「OK」ボタンをクリックします。

10 再起動を促すメッセージが表示された場合は、再起動します。
メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

インターネットに接続するにはルーターなどの設定も必要です。各機器のマニュアルを参照して、設定を行ってください。

●他のパソコンとファイルやプリンターの共有をするとき

使用するネットワーク環境に応じて、次のような設定を行ってください。設定方法について詳しくは、Windowsのマニュアルやヘルプを参照してください。企業などで利用する場合は、ネットワーク管理者に設定内容を確認してください。

・必要なサービスやプロトコルを追加、有効にする
・コンピューター名とワークグループ名を設定する
・フォルダーやプリンターの共有設定をする

これで無線 LAN を使って他のパソコンとファイルのやりとりをしたり、インターネットへ接続したりできるようになります。

次に「無線 LAN の設定をする」（本ページ）に進んでください。

無線 LAN の設定をする

ユーティリティーを使用して本製品で無線通信するための設定を行います。設定が終わったら、通信できるかどうか確認します。

● ユーティリティーを表示する

メモ　設定を行うときは、通信相手の機器（アクセスポイントなど）の電波が届く場所に本製品を取り付けたパソコンを置いてください。通信相手の機器の電波が届かない場所で設定を行うと、通信相手の機器が正しく認識されないことがあります。

1 デスクトップ右下のタスクトレイにある無線アイコン（ または ）をダブルクリックします。

次に運用する各通信モードに合わせて設定を行います。
・インフラストラクチャーモードの場合は、「インフラストラクチャーモードの場合」（本ページ）に進みます。
・アドホックモードの場合は、「802.11 アドホックモードの場合」（P.39）に進みます。なお、本製品のアドホックモードは、802.11 アドホックモードです。

■インフラストラクチャーモードの場合

アクセスポイントを使用して無線 LAN に接続するときは、次のように設定します。

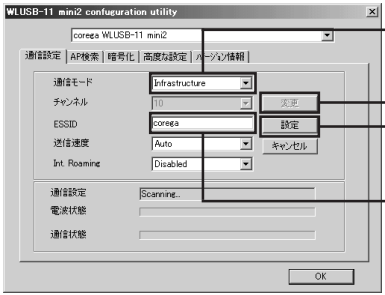
1 アクセスポイントを起動しておきます。

2 「WLUSB-11 mini2 configuration Utility」が表示されたら「変更」ボタンをクリックして、表示される画面で次のように設定します。

注意! ・「ESSID」欄には、接続したいアクセスポイントに設定されているESSIDと同じ文字列を入力する必要があります。
アクセスポイント側に設定されているESSID の調べ方については、アクセスポイントに添付の取扱説明書をご覧ください。
・ESSIDには、32文字以内の半角英数文字および記号を使用できます。使用できる記号は、次の通りです。

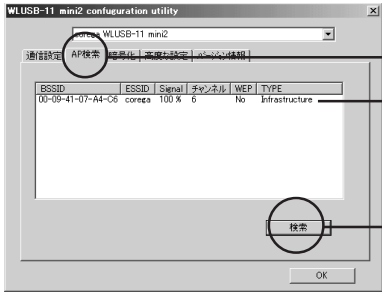
! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ~

メモ 工場出荷時のESSID は「corega」に設定されています。



②「Infrastructure」になっていることを確認します。
①クリックします。
④設定が完了したら「設定」ボタンをクリックします。
③接続するアクセスポイントと同じESSIDを入力します。

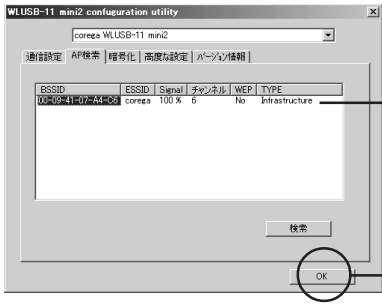
3 「AP検索」タブをクリックします。
しばらくすると、検索されたアクセスポイントが表示されます。



注意! AP検索で表示されたアクセスポイントのうち、WEPキーがかかっているものは、同じWEPキーを設定しないと、接続できません。

メモ 「検索」をクリックしても接続したいアクセスポイントが表示されないときは、アクセスポイント側でESSIDを検出できないように設定されている可能性があります。アクセスポイント側の設定を確認してください。

4 接続できるアクセスポイントが表示されたら、次のように設定します。



無線アイコンがアクセスポイントと接続された状態になります。

これでアクセスポイントと通信できるようになりました。

相手の無線LAN機器とファイルをやりとりできるか、またはインターネットに接続できる環境がある場合は、無線LANを使ってインターネットに接続できるか確認してください。うまくいかない場合は、「PART4 トラブルや疑問があったら」(P.44)および「PART5 ユーティリティーを見てみよう」(P.53)をご覧ください。

次に「接続状態を確認しよう」(P.40)に進んでください。

■802.11 アドホックモードの場合

同じESSID を設定した無線LAN 機器同士で通信するときは、次のように設定します。

1 無線LANの設定が完了している機器を起動しておきます。

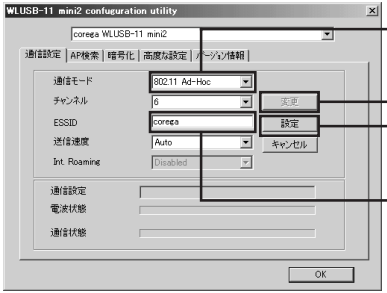
2 「WLUSB-11 mini2 configuration Utility」が表示されたら「通信設定」タブをクリックして、表示される画面で次のように設定します。

注意! ・「ESSID」欄には、通信相手側機器と同じESSIDを入力する必要があります。通信相手側機器に設定されているESSID の調べ方については、通信相手側機器に取り付けられている無線LANアダプターに添付の取扱説明書をご覧ください。

・ESSIDには、32文字以内の半角英数文字および記号を使用できます。使用できる記号は、次の通りです。

! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ~

メモ 工場出荷時のESSID は「corega」に設定されています。



「通信設定」欄に「Ready - BSSID: xx-xx-xx-xx-xx-xx」のように表示されます。

これで無線 LAN 機能のあるパソコン同士で通信できるようになりました。

相手の無線LAN機器とファイルをやりとりできるか、またはインターネットに接続できる環境がある場合は、無線LANを使ってインターネットに接続できるか確認してください。うまくいかない場合は、「PART4 トラブルや疑問があったら」(P.44)および「PART5 ユーティリティーを見てみよう」(P.53)をご覧ください。

次に「接続状態を確認しよう」(本ページ)に進んでください。

接続状態を確認しよう

ユーティリティーを使って無線 LAN 通信の接続状態を確認します。

1 タスクバーに表示されている無線アイコンをダブルクリックします。

2 「WLUSB-11 mini2 configuration Utility」が表示され、現在の無線LAN通信の状態が表示されます。

3

メモ
- 「802.11 Ad-Hoc」モード時には、「電波状態」および「通信状態」は表示されません。
- 「通信設定」タブのその他の項目については、「PART5　ユーティリティーを見てみよう」（P.53）を参照してください。

●通信状態が不安定な場合

通信状態が不安定な場合は、P.38の手順3と同様にして、アクセスポイントに接続し直してください。

次に「セキュリティーの設定をしよう」（本ページ）に進んでください。

セキュリティーの設定をしよう

無線LANではデータの通信に電波を利用しているため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入されたりする恐れがあります。本製品では、これらの対策として次のようなセキュリティー機能を用意しています。

●通信相手を識別するためのESSID（Extended Service Set IDentifier）

無線LANに接続する機器を識別する名前です。SSIDと呼ばれることもあります。同じESSIDを持つ無線LAN機器同士でしか通信できないため、独自のESSIDを設定することにより、外部から不正侵入される危険が減少します。工場出荷時のESSIDは「corega」に設定されています。セキュリティーのためにESSIDを変更することをおすすめします。
設定方法については、このPARTの「無線LANの設定をする」（P.36）を参照してください。

●通信内容を暗号化するWEP（Wired Equivalent Privacy）

通信内容を暗号化すると、仮に通信データを傍受された場合でも、通信内容の復元を容易に行うことができなくなります。このWEP機能を有効にして通信データを暗号化することをお勧めします。
ただし、通信相手側機器もWEP機能を持っていないと使えません。

本製品は、「64Bit」と「128Bit」の2種類のWEPに対応しています。「128Bit WEP」の方がより安全です。また、定期的に暗号キーを変更することで、より安全性が高まります。
・「64Bit WEP」：16進数で10桁の暗号キーを利用可能
・「128Bit WEP」：16進数で26桁の暗号キーを利用可能

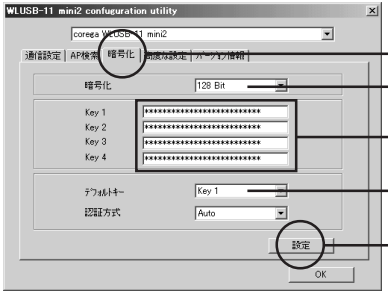
メモ
・「128Bit WEP」を使用する場合は、メモリの消費量が増加するため、無線ネットワークのパフォーマンスに多少影響があります。
・アクセスポイントを使って通信を行うときは、アクセスポイント側にもWEP暗号化の設定が必要になります。設定方法は、アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。
・通信する無線LAN機器はすべて同じWEPを使用する必要があります。

●WEP（Wired Equivalent Privacy）の設定

注意!
・WEP機能を使用する場合は、通信相手の機器がWEP機能を持っている必要があります。
・通信する無線LAN機器はすべて同じWEPを使用する必要があります。

1 デスクトップ右下のタスクトレイの無線アイコン( )をダブルクリックします。「WLUSB-11 mini2 configuration Utility」が表示されます。

2 「暗号化」タブをクリックし、表示される画面で次のように設定します。



これを選択します。

①通信相手側機器と同じ設定にします。

②通信相手側機器と同じ数字を入力します。

③通信相手側機器と同じ番号を選択します。

④設定が完了したら「設定」をクリックします。

①「暗号化」欄から「64Bit」または「128Bit」のどちらかを選択します。

メモ ・相手側機器と同じWEP に設定してください。
・より解読されにくい「128Bit」を選択することをおすすめします。

②「Key1」～「Key4」欄に暗号化キー(任意の16進数:0～9、a～fまでの英数字)を入力します。「64Bit」を選択した場合は16進数で10桁、「128Bit」を選択した場合は16進数で26桁の数字を入力します。

③「デフォルトキー」欄から、相手側通信機器と同じ番号を選んでください。

メモ ・暗号化キーは画面上は「＊」で表示されます。
・通信相手側機器と同じ数字を使ってください。異なった数字では通信できません。
・数字は半角英数字で入力してください。

④「設定」をクリックします。

「通信設定」タブに切り替わり、電波状態と通信状態が表示されます。

3 「OK」をクリックします。

これで通信内容を暗号化できるようになりました。

PART4　トラブルや疑問があったら

本製品を使っていて「困ったな」「うまく動かない…」と思ったとき、疑問があったときは、この章で解決方法を探してください。

解決のステップ

①マニュアルを再確認する。管理者に確認する

②この章の Q&A を確認する

＜トラブルは？＞

本製品用ソフトウェアのインストールができない
「デバイスマネージャ」に本製品が正しく表示されない
「デバイスマネージャ」で「×」が付く
通信ができない
「マイネットワーク」に他のパソコンが表示されない
通信速度が遅い

＜疑問は？＞

ソフトウェアを削除するには？
より安定した通信をするには？
ホットスポットサービスを利用するには？
最新のドライバーやユーティリティーを入手したい

③コレガのホームページの情報を活用する

④それでも解決しなければ、サポート窓口に問い合わせてみる

マニュアルを再確認する。管理者に確認する

本書以外にも通信相手の機器のマニュアル、パソコンに添付のマニュアルをお手元にご用意ください。ネットワークにつながらない原因は複雑なため、本製品の設定が正しくても、他の設定が間違っていたり、通信相手の機器の問題で正しく動作しないこともあります。

このほか…

・企業などでお使いの場合は … ネットワークの設定がオフィスによって決められていることがあります。ネットワーク管理部門などに確認してください。

・インターネットにつながらないときは … インターネットプロバイダーから送られてきた各種設定項目を確認して、設定してください。

Q&A

■本製品用ソフトウェアのインストールができない

メモ ・ソフトウェアのインストール方法は、P.17で紹介しています。
・最新のソフトウェアは、コレガのホームページで提供しています。

次のことを確認してください。

● 本製品に対応の機種、OSをお使いですか?

「PART1 まず準備が必要」「チェック1 パソコンの環境は問題ないですか?」（P.11）を参照して確認してください。

● インストール権限のあるユーザーですか?

Windows 2000やWindows XPでは、「Administrator」や「コンピューターの管理者」権限を持つユーザーでないと、ソフトウェアのインストールやネットワークの設定ができないことがあります。

●「マイコンピュータ」にCD-ROMドライブが表示されていて、使える状態になっていますか?

● 本製品をパソコンに取り付けた状態でインストールしていませんか?

本製品は、ソフトウェアのインストール後に取り付けてください。

■「デバイスマネージャ」に本製品が正しく表示されない

本製品のアイコンが以下のようになっている場合は、ドライバーのインストールに失敗しています。このようなときは、「ソフトウェアを削除するには？」（P.50）の手順を参照してソフトウェアをいったん削除し、「PART2 本製品をパソコンに取り付けよう」「本製品をパソコンに取り付ける」（P.21）を参照して、再インストールしてください。

・「その他のデバイス」や「不明なデバイス」の下に入った
・「ネットワークアダプタ」の項目がない
・「corega WLUSB-11 mini2」アイコンに「！」「？」マークが付く
・「corega WLUSB-11 mini2」アイコンが２つ以上ある

メモ　Windows 2000をお使いの場合、「本製品の取り外し」（P.28）の手順で、をクリックした後、本製品を取り外すまで一時的に、デバイスマネージャの「corega WLUSB-11 mini2」アイコンに「！」が付きますが、ドライバーのインストールの失敗ではありません。

■「デバイスマネージャ」で「×」が付く

「デバイスマネージャ」の「corega WLUSB-11 mini2」アイコンに「×」マークが付いているときは、本製品が「使用不可」または「無効」に設定されています。次の手順で、本製品を使用できるように設定してください。

● Windows 98/Me の場合

1　「デバイスマネージャ」の「corega WLUSB-11 mini2」をクリックして選択（反転表示）し、「プロパティ」をクリックします。
「全般」タブが表示されます。

2　「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」のチェックを外し、「すべてのハードウェアプロファイルで使用する」にチェックを付けます。

3　「OK」をクリックします。

● Windows 2000/XP の場合

1 「コントロールパネル」の「システム」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。

2 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、その下に表示される「corega WLUSB-11 mini2」を右クリックして「有効」を選択します。

■通信ができない

● 本製品は正しく取り付けられていますか?

パソコンのUSBポートにUSBケーブルのコネクターがきちんと差し込まれているか再確認してください。パソコンの電源が入っている状態で「Power LED」が点灯していれば、正しく取り付けられています。

● 本製品用ソフトウェアは、インストールされていますか?

「PART2 本製品をパソコンに取り付けよう」「ソフトウェアをインストールする」（P.17）を参照してインストールしてください。

●ネットワークの設定は済んでいますか?

「PART3　無線 LAN の設定をしよう」（P.29）を参照して、設定してください。

● 通信相手の機器は、このパソコンと通信できるタイプですか?

無線LANにはいくつかの方式があり、同じ方式を使う機器でないと通信できません。「PART1 まず準備が必要」「チェック3　通信相手の機器は準備できていますか？」（P.13）を参照して確認してください。

● セキュリティーの設定を確認してください

「PART3　無線LANの設定をしよう」「セキュリティーの設定をしよう」（P.41）を参照して、セキュリティーの設定を確認してください。特に、すでに無線LANが構築されている環境に機器を追加するときなどは注意が必要です。アクセスポイント側で「WEP暗号化」を設定している場合は、本製品を取り付けたパソコン側にも同じ暗号を設定してください。

● ESSIDを確認してください

通信相手のESSIDと本製品のESSIDが同じである必要があります。「PART3　無線LANの設定をしよう」（P.29）を参照して、本製品のESSIDを通信相手に合わせて設定してください。

メモ　コレガのアクセスポイント製品のESSIDまたはSSIDの初期設定は、「corega」または「corega WL PCC-11」のいずれかになっています。

■「マイネットワーク」に他のパソコンが表示されない

「マイネットワーク」の「ローカルネットワーク」に他のパソコンが表示されない場合は、現在設定中のパソコンが属している「ワークグループ」または「ドメイン」と一致していない可能性があります。

● Windows 98/Meの場合

1　デスクトップにある「ネットワークコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

2　「識別情報」タブをクリックします。
「識別情報」タブの画面が表示されます。ここで、表示したいパソコンと同じ「ワークグループ」または「ドメイン」を設定します。

● Windows 2000の場合

1　デスクトップの「マイコンピュータ」を右クリックして、「プロパティ」をクリックします。

2 「ネットワークID」タブをクリックして、「プロパティ」をクリックします。
「識別の変更」ウィンドウが表示されます。ここで、表示したいパソコンと同じ「ワークグループ」または「ドメイン」を設定します。

● Windows XP の場合

1 「スタート」ボタン−「マイコンピュータ」の順にクリックします。

2 画面左の「システムのタスク」にある「システム情報を表示する」をクリックします。
「システムのプロパティ」が表示されます。

3 「コンピュータ名」タブをクリックして、「変更」をクリックします。

4 「コンピュータ名の変更」から、表示したいパソコンと同一の「ワークグループ」または「ドメイン」を設定します。

■通信速度が遅い

メモ 通信速度や通信距離を確保するための情報をこのPARTの「より安定した通信をするには？」(P.51)で紹介しています。あわせて参照してください。

● 通信相手側機器との距離を確認してください。
通信相手側機器との距離によって、通信速度が大きく変わることがあります。

● 電子レンジを使用していませんか?
電子レンジで使用される電磁波は、無線LANで使用される周波数に近いので、無線LANに影響を与えることがあります。

● 複数台のパソコンで、無線 LAN を使っていませんか?
無線LANで接続されているパソコンが多くなると、それぞれの通信速度が遅くなります。

■ソフトウェアを削除するには？

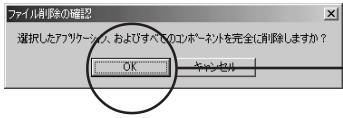
本製品用ソフトウェア（ドライバー、ユーティリティー）をパソコンから削除する方法を説明します。

1 「本製品の取り外し」(P.28)の手順を参照して、パソコンから本製品を取り外します。

注意! 本製品を取り付けた状態でアンインストールを実行すると、正常にアンインストールが行えない場合があります。

2 「スタート」−「プログラム」−「corega WLUSB-11 mini2」−「Uninstall」の順にクリックします（Windows XPの場合は、「スタート」−「すべてのプログラム」−「corega WLUSB-11 mini2」−「Uninstall」の順にクリックします）。
「ファイル削除の確認」が表示されます。

3 「OK」をクリックします。



アンインストールが始まります。

4 次の画面が表示されたら、「完了」をクリックします。

これでソフトウェアのアンインストールは終了です。

■より安定した通信をするには？

● 相手側の無線 LAN 機器との距離を近づける
● 相手側の無線 LAN 機器との間に障害物を置かない
● 金属製のラックなどに無線 LAN 機器を設置しない

通信速度が遅い、通信が途切れるような場合は、まず各機器の距離を近づけて試してください。また、相手側機器との間に、壁や床、金属製の家具などがあると、通信に影響することもあります。

●電子レンジや医療機器から離して使用する

意外に思うかもしれませんが、電子レンジは無線LANの大敵です。電子レンジが調理に使う電磁波と、無線 LAN が使用する周波数が近いため影響が出てしまいます。

● 本製品の向きを変えてみる

アンテナの向きが変わって、電波が入りやすくなることもあります。

● 設定を変更してみる

アドホック（AdHoc）モードのときは、チャンネルを変更すると通信が安定することがあります。このほかのネットワークの設定変更も試してください。

■ホットスポットサービスを利用するには？

ホットスポットのサービス提供形態はさまざまで、無料で公開されているもの、会員制などで手続きが必要なものなどがあります。
「DHCP を使う」「ESSID は ANY または空欄」が一般的な設定です。詳しくはホットスポットの管理者などにお問い合わせください。

メモ　不特定多数に向けてサービスされている「ホットスポット」は、便利な反面、セキュリティー上の問題も考えられます。次のような方法で対策をしてください。詳しくは、Windows、各ソフトウェアの取扱説明書やヘルプを参照してください。

・ファイルやフォルダーの共有をしないようにする
・ファイルやフォルダーにパスワードを設定する
・ウイルス検出ソフトやファイアウォールソフトを組み合わせて使う

■最新のドライバーやユーティリティーを入手したい

改良などのために予告なく、本製品のドライバーやユーティリティーのバージョンアップ、パッチレベルアップを行うことがあります。
最新の情報は、コレガのホームページから入手することができます。

コレガのホームページの情報を活用する

コレガのホームページでは、お客様からのよくあるお問い合わせ情報やネットワークの一般知識を分かりやすく解説しているページを公開中です。困っていることを解決するヒントになります。

http://www.corega.co.jp/

それでも解決しなければ、サポート窓口に問い合わせてみる

次の２種類のサポートメニューを用意しています。

①必要事項を記入して窓口に FAX
裏表紙に記載の必要事項を記入した書面を次の窓口にFAXしてください。折り返し回答をさし上げます。
FAX 番号：045-476-6294（通信料はお客様の負担となります）

②コレガテクニカルサポート（ご購入後専用ダイアル）に問い合わせ
電話をかける前に、トラブルの内容を整理してください。サポート担当者に整理した内容を伝えることがスムーズな解決への近道になります。
TEL 番号：045-476-6268（通信料はお客様の負担となります）

受付時間： 10：00～12：00、13：00～18：00
（祝・祭日を除く月～金、ただし弊社指定休業日は除きます）

問い合わせ番号などが変更される場合があります。最新情報は、コレガのホームページ（http://www.corega.co.jp/）でご確認ください。

PART5　ユーティリティーを見てみよう

ここでは、本製品の設定ユーティリティー「corega WLUSB-11 mini2 configuration Utility」について説明します。本製品の設定や接続状態の確認は、このユーティリティーを使って行うことができます。ユーティリティーでは、以下のことが行えます。

タブ名	内容
通信設定	本製品の設定を行うことができます。また、現在の通信状態を表示します。正常に通信が行われているかどうか確認できます。
AP 検索	利用可能なアクセスポイントの一覧を表示できます。
暗号化	WEP機能による無線通信の暗号化の設定を行うことができます。
高度な設定	省電力などの高度な設定を行うことができます。
バージョン情報	本製品の現在のソフトウェアのバージョンを確認できます。

ユーティリティーを表示する

ユーティリティーはパソコンの起動時に自動的に起動し、常駐しています。ユーティリティーの画面を表示するには、次の手順で操作します。

メモ　設定を行うときは、通信相手の機器の電波が届く場所に本製品を取り付けたパソコンが置かれていることを確認してください。通信相手の機器の電波が届かない場所で設定を行うと、通信相手の機器が正しく認識されないことがあります。

1 デスクトップ右下のタスクトレイにある無線アイコン(または)をダブルクリックして、ユーティリティーを表示します。

● ユーティリティーの画面を消す

各タブにある「OK」ボタンをクリックすると、ユーティリティーの画面が消えます。この状態では、画面は消えますが、ユーティリティーは終了していません。

●ユーティリティーを終了する

1 デスクトップ右下のタスクトレイにある無線アイコン(または)を右クリックして、表示されたメニューから「Exit」をクリックします。

再度、ユーティリティーを起動するときは、「スタート」－「プログラム」－「corega WLUSB-11 mini2」－「WLUSB-11 mini2 configuration Utility」をクリックします。

設定項目について

■「通信設定」タブについて

「WLUSB-11 mini2 configuration Utility」が表示されたら「通信設定」タブを選択します。

メモ
- ユーティリティーの起動時は「通信設定」が表示されます。
- 「802.11 Ad-Hoc」モード時には、「電波状態」および「通信状態」は表示されません。
- 「電波状態」および「通信状態」で表示される送信速度、通信状態、電波状態などの値は、目安です。

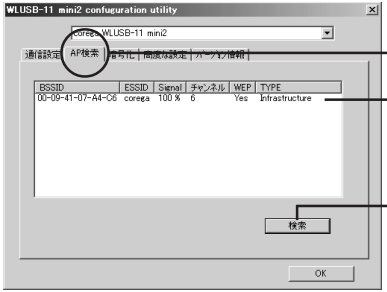
項目名	説明
①変更	クリックすると、プルダウンリストボックスの内容が選択できるようになります。
②通信モード	「Infrastructure」、「802.11 Ad-Hoc」の2つのモードから使用する通信モードを選択してください。 ※工場出荷時の設定は「Infrastructure」です。
③チャンネル	現在使用しているチャンネル番号を表示します。「Infrastructure」モード時は、チャンネルは変更できません。
④ESSID	接続したい無線LAN機器に設定されているESSIDと同じ文字列を入力します。 ※工場出荷時の設定は、「corega」です。
⑤通信速度	無線LANで使用する送信速度を選択できます。通常は、変更する必要はありません。 ※工場出荷時の設定は、「Auto」です。
⑥Int. Roaming	工場出荷時の設定は、「Disabled」になっています。設定を変更する必要はありません。
⑦設定	プルダウンリストボックスから選択した設定を、動作に反映させる場合にクリックします。
⑧キャンセル	設定を取り消す場合にクリックします。
⑨通信設定	現在の無線接続の状況を表示します。 「Associated」（接続されている状態）、「Searching」（通信相手の検索中）、「Disconnected」（接続されていない状態）の3種類で表示されます。アクセスポイントに接続している場合は、アクセスポイントのBSS ID（MACアドレス）が表示されます。本製品が、あるアクセスポイントと別のアクセスポイントの間でローミング（移動）を行う際にも「Scanning」の表示となります。
⑩電波状態	現在の電波状態をパーセンテージで表示します。
⑪通信状態	現在の通信状態をパーセンテージで表示します。

※設定が終了したら、「設定」をクリックして、設定内容を反映させてください。

■「AP 検索」タブについて

「WLUSB-11 mini2 configuration Utility」が表示されたら「AP 検索」タブを選択します。

メモ
- 主に次のような条件を満たす接続相手がリストアップされます。
  - 802.11 アドホックモードに設定されている無線 LAN 機器
  - 「ブロードキャスト SSID」が有効になっているアクセスポイント
- アクセスポイントに WEP が設定されている場合は、同じ WEP を設定しなければ接続できません。



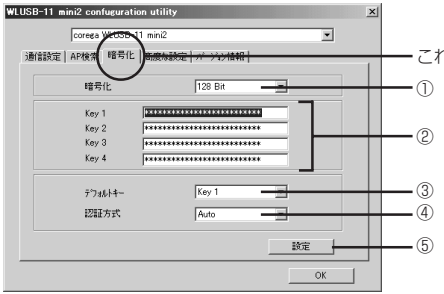
項目名	説明
①検索	複数のアクセスポイントから接続したいアクセスポイントを探したい場合にクリックしてください。新たにアクセスポイントを検索できます。 ※本製品は、リストに表示されません。

※リストから接続したいアクセスポイントを選択した後、「OK」をクリックしてください。目的のアクセスポイントに接続することができます。

■「暗号化」タブについて

「WLUSB-11 mini2 configuration Utility」が表示されたら「暗号化」タブを選択します。設定方法は、「PART3　無線LANの設定をしよう」(P.29) を参照してください。

注意!
- 暗号を使用して通信を行う場合は、暗号を使用するグループのパソコンすべてに、同じ暗号キーを設定してください。
- セキュリティーを確保するため、暗号キーの設定後、ユーティリティーを終了し、再度ユーティリティーを起動した場合、「暗号化」タブに以前設定したキーの値は表示されません。



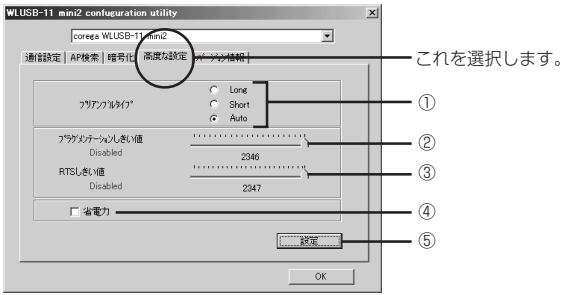
項目名	説明
①暗号化	暗号を使用するかどうかを選択します。暗号を使用する場合は、64bitと128bitの2種類から暗号長を選択できます。工場出荷時の設定(「Disabled」)では、通信内容は暗号化されていません。
②Key1 ～Key4	暗号キーを直接入力します。 ※工場出荷時は設定されていません。
③デフォルトキー	Key1～Key4のうち、実際に使用する暗号キーを選択します。 ※工場出荷時の設定は「1」です。
④認証方式	暗号化で使用する認証方式を選択できます。 ※工場出荷時の設定は「Auto」です。

項目名	説明
⑤設定	クリックすると、設定内容が保存され本製品の動作に反映されます。確認メッセージ等は、表示されませんので注意してください。

※設定が終了したら、「設定」をクリックして、設定内容を反映させてください。

■「高度な設定」タブについて

「WLUSB-11 mini2 configuration Utility」が表示されたら「高度な設定」タブをクリックします。



項目名	説明
①プリアンブルタイプ	「Long」「Short」「Auto」から選択できます。 ※工場出荷時の設定は「Auto」です。
②プラグメンテーションしきい値	フラグメントしきい値（分割しきい値）を設定します。すべてのパケットは、ここで設定された値以下のサイズに分割されます。
③RTS しきい値	RTS しきい値を設定します。ここで設定された値を超えるパケットを送信しようとすると、RTS/CTS機能を有効にします。

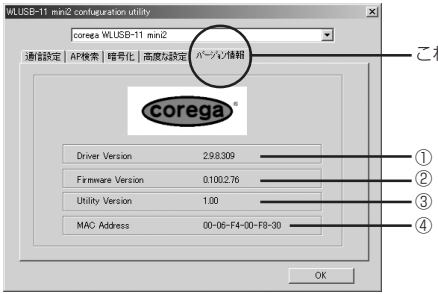
注意! 工場出荷状態の設定で通信は可能です。通常は設定を変更する必要はありません。ただし、通信相手によっては設定の変更が必要な場合もあります。

項目名	説明
④省電力	チェックマークを付けると、本製品を省電力モードで運用できます。省電力モードの場合、無通信時に本製品への電力供給が自動的に抑えられ、バッテリーで動作するコンピューターの場合、省電力モードを使用しない場合に比べて稼働時間が長くなります。 ※省電力モードに設定した場合、環境によっては通常より通信状況が悪くなることがあります。そのような場合には、省電力のチェックマークを外した状態で運用してください。 ※工場出荷時の設定は、チェックマークが外れた状態です。 ※「Infrastructure」モード以外では使用できません。
⑤設定	クリックすると、設定内容が保存され本製品の動作に反映されます。確認メッセージ等は、表示されませんので注意してください。

※設定が終了したら、「設定」をクリックして、設定内容を反映させてください。

■「バージョン情報」タブについて

「WLUSB-11 mini2 configuration Utility」が表示されたら「バージョン情報」タブを選択します。



項目名	説明
①Driver Version	現在のドライバーのバージョンを表示します。
②Firmware Version	現在のファームウェアのバージョンを表示します。
③Utilty Version	現在のユーティリティーのバージョンを表示します。
④MAC Address	本製品のMACアドレスを表示します。

製品仕様

製品名		corega WLUSB-11 mini2
無線部	サポート規格	（国際規格）IEEE 802.11 、IEEE 802.11b （国内規格）ARIB STD-T66/RCR STD-33
	周波数帯域	2.4～2.497GHz
	伝送方式	直接拡散型スペクトラム拡散方式（DS-SS 方式）
	アクセス制御方式	CSMA/CA
	データ転送速度	11/5.5/2/1 Mbps 自動切り替え
	スクランブル処理	WEP（64/128bit）、ESSID
	アンテナ形式	ダイポールアンテナ
	チャンネル数	14 チャンネル
	通信モード	Infrastructure/802.11 AdHoc
	ローミング	IEEE 802.11 準拠
PC インターフェース		USB 規格 Ver.1.1
電源部	動作電圧	DC 5V
	最大消費電流	送信時 540mA、受信時 260mA
環境条件	保管時温度	－20～60℃
	保管時湿度	95% 以下（ただし、結露なきこと）
	動作時温度	0～40 ℃
	動作時湿度	80% 以下（ただし、結露なきこと）
外形寸法		65（W）×95（D）×13（H）mm
重量		37g（USB ケーブル、突起部含まず）
取得承認		EMI 規格 VCCI クラス B 、技術基準適合認定、Wi-Fi

工場出荷時の設定

本製品は工場出荷時に以下の設定となっています。

通信モード	Infrastructure
ESSID	corega
チャンネル	6
送信速度	Auto

MAC アドレスについて

本製品のMACアドレスは、本体裏面に記入されています。MACアドレスは本製品の内部に書き込まれているため、ユーザーが変更することはできません。
「PART1 まず準備が必要」「各部の名称と機能を覚えよう」（P.15）を参照して、MACアドレスを確認してください。

保証と修理について

■保証について

製品保証書裏面に記載されている「製品保証規定」を必ずお読みになり、本製品を正しくご使用ください。無条件で本製品を保証するということではありません。正しい使用方法で使用した場合のみ、保証の対象となります。また、物理的な破損等が見受けられる場合は、保証の対象外となりますので予めご了承ください。本製品の保証期間については、保証書に記載されている保証期間をご覧ください。

■修理について

故障と思われる現象が生じた場合は、まず取扱説明書を参照して、設定や接続が正しく行われているかを確認してください。現象が改善されない場合は、裏表紙に記載の必要事項をご記入の上、保証書および購入日の証明できるもののコピー（レシート等可）を添付し、弊社サポートセンター宛てに製品（付属品一式を含む）を送付ください。製品を送付する際は、以下の点にご注意ください。

- 修理期間中の代替機等は弊社では用意しておりませんので、予めご了承ください。
- 保証書に販売店の押印がない場合は、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。
- 製品購入日の証明ができない場合、無償修理の対象となりませんのでご注意ください。
- 弊社サポートセンターへ製品を送付する際の送付料金につきましては、お客様のご負担とさせていただきます。尚、運送中の故障や事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- 宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付願います。普通郵便による送付は固くお断りいたします。
- 修理期間は、製品到着後、約 10 日程度（弊社営業日数）を予定しております。

●製品送付先

〒 222- 0033 横浜市港北区新横浜 1- 19- 20
（株）コレガ corega サポートセンター宛

おことわり

- 本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- 本製品の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©2003 株式会社コレガ

corega は、株式会社コレガの登録商標です。
Windowsは、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
その他、この文書に掲載している会社名、製品名はそれぞれの会社の商標または登録商標です。

2003 年 3 月 Rev.A 初版

製品に関するご質問は…

製品に関するご質問は、コレガサポートセンターまでお問い合わせください。
お問い合わせの際には、下記の必要事項をご記入いただいた書面をFAXいただくか、電話にてお知らせください。

■お問い合わせ先

〒222-0033　横浜市港北区新横浜 1-19-20
（株）コレガ　corega　サポートセンター
TEL.045-476-6268
FAX.045-476-6294
＜受付時間＞
10:00～12:00、13:00～18:00　月～金（祝・祭日を除く）

■必要事項

ご質問の前にあらかじめ下記の必要事項を控えておいてください。

- 製品名
- シリアル番号（S/N）、リビジョンコード（Rev.）
- お名前、フリガナ
- 連絡先電話番号、FAX 番号
- 購入店
- 購入日付
- お問い合わせ内容（できる限り詳しくお知らせください）